

1 三吉橋



新富2丁目付近

中央区役所の目の前の三叉路に架かっている三吉橋。この三叉路はかつて、築地川と楓川（もみじがわ）・築地川連絡運河が合流するところでした。やがて高速道路の建設などで運河が徐々に埋め立てられ現在の姿になりますが、橋からの眺めはかつての運河の流れが想像できます。

5 明石町河岸公園



明石町 8

聖路加ガーデンの裏手にある隅田川沿いの親水公園。スーパー堤防との一体的な開発により、水辺のオープンスペースや緑道が整備されています。また、休日には観光遊覧船の発着場にもなる防災船着場や、防災井戸を活用したマンホールトイレなど、防災施設も充実しています。

2 築地川公園



明石町 10-2
7:00～20:30 無料

入船橋付近で築地川は南に方向を変え、その曲がっていた部分の川床を活用したのが築地川公園の多目的広場です。上から眺めれば直角に近い角度で曲がっていた運河の痕跡が、広場に立ってみると川幅の広さや深さが実感できます。この広場から南側は暗渠（あんきょ）になり、蓋の上は緑地が続く公園になっています。暗渠の中は、晴海と連結する予定だった首都高10号線建設計画のトンネルの名残で、現在はフェンスが張られ、中央区が土木資材の倉庫などに使っています。

6 佃島渡船場跡



佃 1-11-4

江戸時代に始まった、佃島と対岸の船松町を渡す「佃の渡し」。それまで有料の手漕ぎ船だったのが、1927年（昭和2）から動力船による無料の曳舟になります。それを記念して両岸に建てられたのが「佃島渡船」の石碑で、こちらは佃地区側の渡船場跡です。その曳舟も1964年（昭和39）に完成した佃大橋により役割を終えました。

3 浅野内匠頭邸跡



明石町 10

「忠臣蔵」で有名な浅野家の江戸屋敷跡の石碑。築地川に面した広大な屋敷でしたが刃傷沙汰のあと召し上げになり、明治からは実業家五代友厚が管理する土地となり、やがて外国人居留地となりました。近くには「芥川龍之介生誕の地」や「慶応義塾発祥の地」などの石碑もあり、この一帯には多くの史跡が点在しています。

7 住吉神社



佃 1-1-14

佃島を埋め立て開拓した漁民が、ふるさとである摂津国佃村（大阪市）の住吉神社の分社として、1646年（正保3）に建立しました。1841年（天保12）に寄進された水盤舎には、かつての佃島の景色が浮き彫りされています。また、鳥居に掲げられた陶製扁額（へんがく）は有栖川宮幟仁親王（あすがのみや たかひとしんのう）の筆によるものです。神社の裏手には、隅田川から引き込まれた佃川支川が残り、多くの掘割が姿を消した今となってはとても貴重な存在です。

4 タイムドーム明石



明石町 12-1 6階 入場料：常設展示 100円

タイムドーム明石（中央区立郷土天文館）は、中央区の歴史や文化を7つのテーマに分けて展示している常設展示室や、プラネタリウム、区民ギャラリーを合わせた施設です。特別展をはじめ、様々なイベントが行われ、歴史や芸術、天文などに興味を持っている方の交流の場となっています。この建物の裏手は、かつて明石掘と呼ばれた入り江でしたが、現在は埋め立てられて公園（あかつき公園）になっています。

8 船溜り



佃 1丁目付近

佃川支川はかつて佃川に合流していました。佃大橋の建造とともに佃川は埋め立てられ、合流地点で行き止まりになっています。今でも釣り船がここから住吉水門をくぐり、隅田川に入っています。

9 佃小橋



佃 1丁目付近

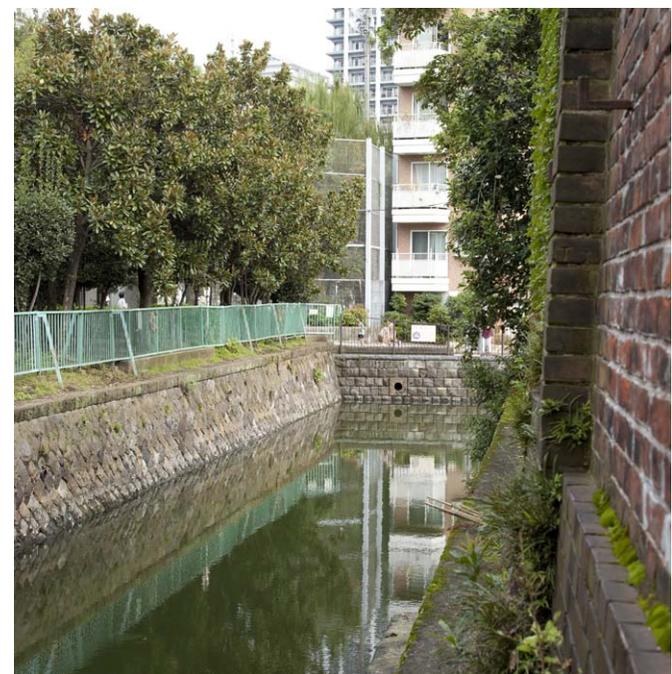
佃川支川に架かる橋で、ここから入り江となった佃川支川が望めます。この橋の下にはコンクリートで囲われた部分があり、運河の底には、住吉神社の3年に一度の本祭で使われる大織（おおのぼり）の抱木（だき）と柱が埋められています。祭の1カ月前に柱を掘りおこし、終わったらまた埋め戻します。運河の底に埋めるのは、土のなかで一定温度に保つことによって木の柱が腐ったり風化することを防ぐため、江戸時代から変わらぬ習慣です。

10 佃浪除稲荷神社



佃 1-8-4

五穀豊穡と海上安全の神様を祀り、佃島漁民の信仰を集めた小さな神社です。その境内には「さし石」と刻印されたいくつかの力石が置かれています。地元の若者が石を持ち上げ力を競い合ったもので、およそ60キロ以上あります。江戸から明治にかけて特に全国の漁村によく見られた習俗で、祭りの際に男前を競いました。



住吉神社の裏手を流れる佃川支川

埋め立てられた運河巡りガイド

馬場悦子さん（中央区教育委員会 文化財調査指導員）の解説をもとにミツカン水の文化センターが作成

里川文化塾実施日：2015年9月26日